

学生テニス競技者におけるラケット選択に関する研究

Research on factors of student tennis player's racket selecting behavior

1K06B071-2 加藤 哲太郎

研究指導教員 主査 木村 和彦 先生 副査 関 一誠 先生

1.序論

テニスのラケットは通常1年以上使う重要な用具である(日本文化出版株式会社:テニスクラシック(2008年))。しかし、ラケット選択に関する研究はCiNiiで検索したところ今まで取り組まれてこなかった(2009年12月11日現在)。本研究では中学生から大学生を対象に、多種多様なラケットの中からどのような基準でラケット選択を行うかを調査した。テニスをする目的やテニス歴、競技レベルといった競技者の特性が、ラケット選択に与える影響を明らかにすることは、今後のラケット開発や販売促進に大きく寄与するものであると思われる。

2.研究方法

調査期間は2009年11月6日から20日で渋谷教育学園幕張中学校・高等学校のテニス部員、早稲田大学のテニス部員・テニスサークルの学生、計177名に対し、調査を行った。テニスをする動機や競技レベルなどの特性によるラケット選択の要因の差を測るため、質問紙調査に基づく、各項目間の比較分析を行った。競技レベルと動機による差を測るため、【上級者】【愛好者】と【競技志向】【非競技志向】のグループを作った。統計処理及び分析は、SPSS Statics 17.0を使用し、統計的有意性の水準はすべて5%未満とした。

3.結果・考察

本研究を通して、どのような特性でも、ラケット選択で最も重視するのは「打球感」であることが明らかになった。また、ラケット選択要因に関しては、いくつかの傾向を明らかにすることができた。

一つ目は競技歴が長い、あるいは競技レベルが高い人ほど、ラケット選択基準を明確に持っていることである。特に、試打を経てラケットの最終決定に至る傾向があると考えられる。また、競技レベルが高いほど、メーカーへのロイヤリティが高いことが明らかになった。これは、競技を続ける内に、自分に合うメーカーに辿り着いたからだと思われる。また、競技歴が浅い、あるいは競技レベルが低くても【競技志向】であれば、上記

と同等のラケット選択をしていることが明らかになった。これらに加え、【競技志向】は競技歴や競技レベルとは関係なく、「有名選手や憧れの選手の影響」を受けることが明らかになった。【競技志向】の方がテニスの試合を見る機会が多く、より有名選手を知っていて憧れている可能性が高いと推察される。

二つ目は競技歴が浅い、あるいは競技レベルが低い人ほど、知人や店員、その他の情報源でラケットを選択する傾向がある。これはラケット選択基準が定まっていないということが考えられる。また、ラケットにおける打球感が身に付いていないことが試打をしないことにつながると考えられる。ラケット選択基準が定まっていないので、「価格」や「デザイン」といった機能性以外の要因を決定要因とすることもある。また、競技歴が長く、競技レベルが高くても【非競技志向】であれば、上記と同等のラケット選択をしていることが明らかになった。

4.まとめ

以上より、「打球感」がラケット選択において最も重要な要因である。従って、各メーカーは打球感の向上を第一に考えていかなければならない。しかし、競技者の好みは多様で様々なニーズが存在する。そして、様々なメーカーの様々なブランドのラケットが使われていることを考えると万人に受け入れられるラケットは存在しない可能性がある。現在もそうであるが、ブランドごとに適切なターゲットを定め、好まれる打球感を追究し続ける必要があると言えよう。また、競技志向グループには有名選手などを起用したイメージを付加すること、非競技志向グループにはメーカー側がコーチや店員との関係を深め、ラケットの相互理解を進めることが効果的だと思われる。この研究が今後の更なる研究に寄与することと考える。